

## CLUSTERPRO X 2.0 for Windows、ウイルスバスター コーポレートエディション 8.0 インストール、設定手順

以下に、NEC CLUSTERPRO X 2.0 for Windows(以下 CLUSTERPRO)及びウイルスバスター コーポレートエディション 8.0(以下ウイルスバスター Corp.)をインストールし、クラスタリング環境を構成する方法を記します。

### 目次

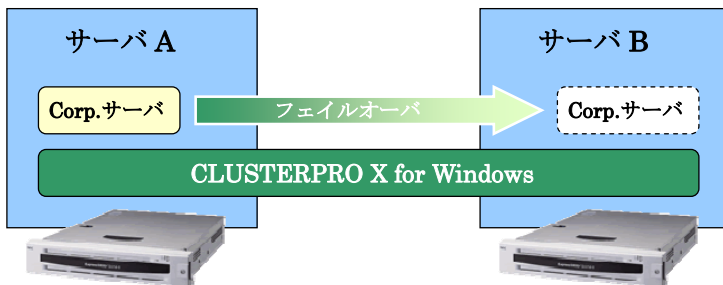
- 1.環境構成概要
- 2.インストール前に準備するもの
- 3.CLUSTERPRO とウイルスバスター Corp.サーバ組み合わせインストール
- 4.CLUSTERPRO とウイルスバスター Corp.クライアント組み合わせインストール
- 5.既知の制限事項
- 6.ウイルスバスター Corp.サーバアンインストール
- 7.サポートについて
- 8.本ドキュメントにおける使用用語説明

#### 1.環境構成概要

以下に、本手順でご説明する構成概要を記します。

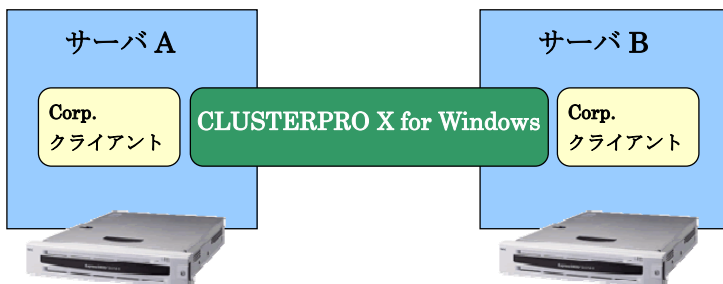
2 台のサーバでクラスタリングを構成します。

1-1.Corp.サーバとの組み合わせ



CLUSTERPRO によって切替パーティションを設定します。本ドキュメントではこの切替パーティションを E ドライブとし、ウイルスバスター Corp.サーバは E ドライブにインストールします。

1-2.Corp.クライアントとの組み合わせ



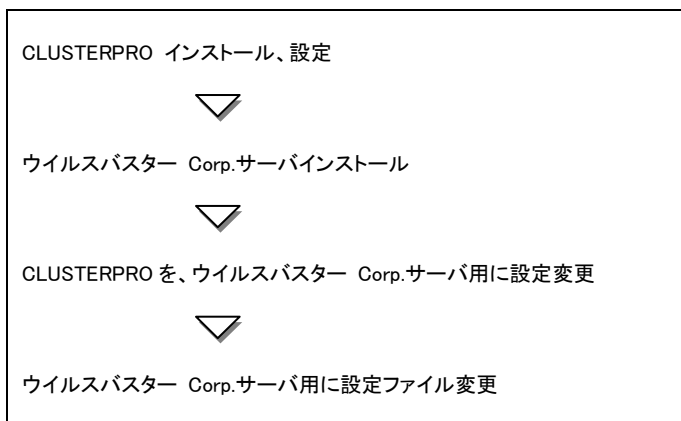
ウイルスバスター Corp.クライアントは C ドライブにインストールします。

#### 2.インストール前に確認、準備するもの

- CLUSTERPRO、ウイルスバスター Corp.をインストールするハードウェア、ソフトウェアが、両製品のシステム要件を満たすこと
- CLUSTERPRO X 2.0 for Windows インストール媒体
- CLUSTERPRO X 2.0 for Windows 最新版アップデート
- ウイルスバスター コーポレートエディション 8.0 Service Pack 1 適用済版  
※CDROM もしくはインストールファイルを E ドライブにファイルを配置してインストール実施
- ウイルスバスター Corp. 8.0 SP1 用 Patch 1(E ドライブにファイル配置)
- CLUSTERPRO X 2.0 for Windows インストール&設定ガイド、リファレンスガイド  
(CLUSTERPRO のインストール方法、操作方法、各種パラメータの説明などに関しては上記ガイドをご確認ください。)
- ウイルスバスターコーポレートエディション インストール&管理者ガイド  
(クラスタ環境特有のインストール方法、調整以外の一般的なウイルスバスター Corp.のインストールに関しては上記インストールガイド、管理者ガイドをご確認ください。)
- 有効なウイルスバスター Corp. 8.0 アクティベーションコード

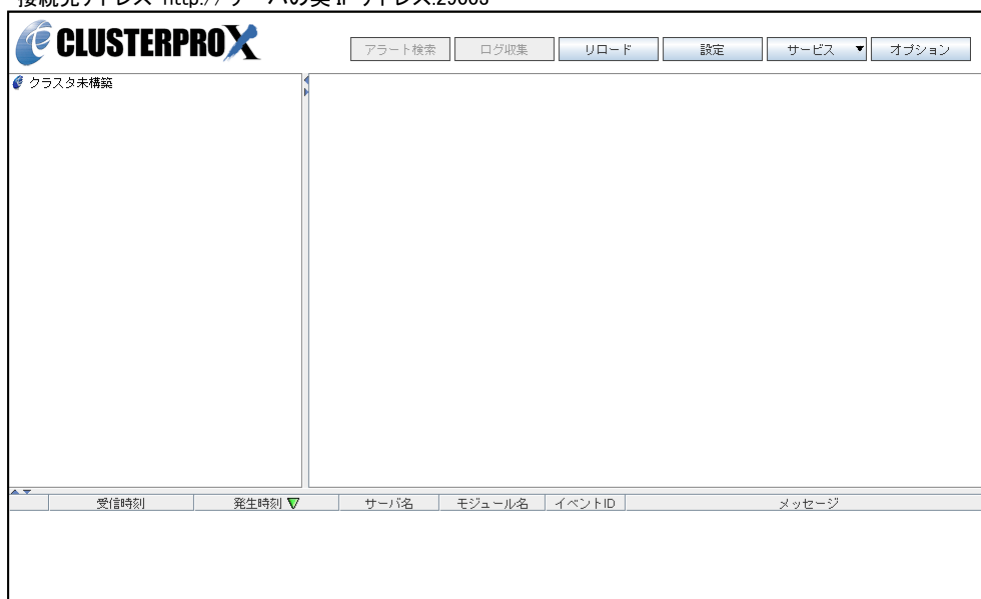
#### 3.CLUSTERPRO とウイルスバスター Corp.サーバ組み合わせインストール

CLUSTERPRO とウイルスバスター Corp.サーバの組み合わせインストールは、以下の手順で行います。



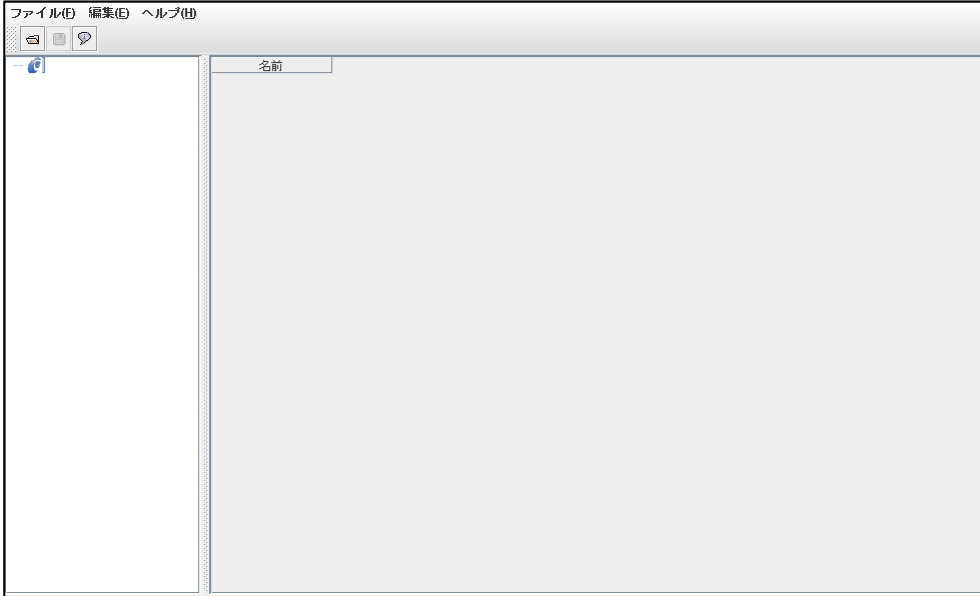
### 3-1.CLUSTERPRO インストール手順

- 3-1-1.クラスタリング両サーバ(サーバA、サーバB)に管理者権限でログイン可能なことを確認します。
- 3-1-2.CLUSTERPRO をインストールします。(両サーバ)
- 3-1-3.CLUSTERPRO 最新版アップデートを適用します。(両サーバ)
- 3-1-4.OS を再起動します。(両サーバ)
- 3-1-5.Java Runtime Environment がインストールされていない場合はインストールします。(両サーバ)  
Java Runtime Environment Version 5.0 Update 6 (1.5.0\_06) 以降を適用してください。
- 3-1-6.Web ブラウザを起動し、Cluster Manager に接続します。  
接続先アドレス”http://サーバの実 IP アドレス:29003”



3-1-7.CLUSTERPRO の設定をします。

■Cluster Manager にて、「設定」をクリックし、Cluster Builder を起動します。



設定例

設定対象	設定パラメータ	設定値 (共有ディスク 使用時)	設定値 (ミラーディスク 使用時)
クラスタ構成	クラスタ名	cluster	cluster
	サーバ数	2	2
	管理用グループ数	1	1
	フェイルオーバーグループ数	1	1
	モニタ リソース数	5	6
ハートビート リソース	カーネルモードLANハートビート数	2	2
サーバAの情報 (マスタ サーバ)	サーバ名	server1	server1
	インタコネク트의 IP アドレス (専用)	10.0.0.1	10.0.0.1
	インタコネク트의 IP アドレス (バックアップ)	192.168.0.1	192.168.0.1
	パブリックの IP アドレス	192.168.0.1	192.168.0.1
	COM I/F	COM1	-
	ディスク I/F	D:	-
	PingI/F	-	-
	多数決I/F	-	-
	ミラーコネク트의 I/F	-	10.0.0.1
	HBA	共有ディスクに接続しているHBA	-
サーバBの情報	サーバ名	server2	server2
	インタコネク트의 IP アドレス	10.0.0.2	10.0.0.2

設定対象	設定パラメータ	設定値 (共有ディスク 使用時)	設定値 (ミラーディスク 使用時)	
	(専用)			
	インタコネク트의 IP アドレス (バックアップ)	192.168.0.2	192.168.0.2	
	パブリックの IP アドレス	192.168.0.2	192.168.0.2	
	COM I/F	COM1	-	
	ディスク I/F	D:	-	
	PingI/F	-	-	
	多数決I/F	-	-	
	ミラーコネク트의 I/F	-	10.0.0.2	
	HBA	共有ディスクに接続し ているHBA	-	
管理用グループ (WebManager 用)	タイプ	フェイルオーバ	フェイルオーバ	
	グループ名	ManagementGroup	ManagementGroup	
	起動サーバ	server1→server2	server1→server2	
	グループ リソース数	1	1	
管理用グループのグループリソース	タイプ	フローティングIPリソース	フローティングIPリソース	
	グループ リソース名	ManagementIP	ManagementIP	
	IPアドレス	192.168.0.11	192.168.0.11	
業務グループ	タイプ	フェイルオーバ	フェイルオーバ	
	グループ名	failover1	failover1	
	起動サーバ	server1→server2	server1→server2	
	グループ リソース数	3	3	
一つめのグループリソース	タイプ	フローティングIP	フローティングIP	
		グループリソース名	fip1	fip1
		IP アドレス	192.168.0.12	192.168.0.12
	二つめのグループリソース	タイプ	ディスクリソース	ミラーディスクリソース
		グループ リソース名	sd1	md1
		ディスクリソースドライブ文字	E:	-
		ミラーディスクリソース クラスター パーティションドライブ文字	-	D:
		ミラーディスクリソース データパー ティションドライブ文字	-	E:
	三つめのグループリソース	タイプ	仮想コンピュータ名リ ソース	仮想コンピュータ名リ ソース
		グループ リソース名	vcom1	vcom1
		仮想コンピュータ名	vcom	vcom
		対象FIPリソース名	fip1	fip1

設定対象	設定パラメータ	設定値 (共有ディスク 使用時)	設定値 (ミラーディスク 使用時)
一つめのモニタリソース	タイプ	フローティングIP監視	フローティングIP監視
	モニタリソース名	fipw1	fipw1
	NIC Link Up/Down を監視する	オン	オン
	対象リソース	fip1	fip1
	回復対象	fip1	fip1
	再活性化しきい値	1	1
二つめのモニタリソース (仮想コンピュータ名リソース作成後自動作成)	タイプ	仮想コンピュータ名監視	仮想コンピュータ名監視
	モニタリソース名	vcomw1	vcomw1
		vcom1	vcom1
	回復対象	cluster	cluster
	最終動作	クラスタサービス停止とOSシャットダウン	クラスタサービス停止とOSシャットダウン
三つめのモニタリソース (ミラーディスクリソース作成後自動作成)	タイプ	-	ミラーコネクタ監視
	モニタリソース名	-	mdnw1
	ミラーディスクリソース	-	md1
	回復対象	-	md1
	最終動作	-	何もしない
四つめのモニタリソース (ミラーディスクリソース作成後自動作成)	タイプ	-	ミラーディスク監視
	モニタリソース名	-	mdw1
	ミラーディスクリソース	-	md1
	回復対象	-	md1
	最終動作	-	何もしない

※必要に応じて他の設定をします。(ディスクやネットワーク監視などの設定)

### 3-1-8.設定ファイルをアップロード

- Cluster Builder にて、「ファイル」→「情報ファイルのアップロード」をクリックします。アップロードが成功し、「マネージャ再起動」、「クラスタ開始」を要求されます。「マネージャ再起動」→Cluster Manager にて、「サービス」→「マネージャ再起動」「クラスタ開始」→Cluster Manager にて、「サービス」→「クラスタ開始」

### 3-1-9.ミラーリング自動開始(ミラーディスク使用時)

Eドライブが自動でミラーリング開始します。  
完了すると、Cluster Manager の「Monitors」が黄色に変わり(ミラーリング中)、その後緑に変わります。  
以上でウイルスバスター Corp.サーバインストール前の CLUSTERPRO の設定は完了です。

### 3-2.ウイルスバスター Corp.サーバインストール前確認事項

#### 3-2-1.Eドライブに対して、サーバ A からのみアクセス可能な状態であること。

サーバ B から Eドライブへはアクセス不可の状態であること。  
※逆にサーバ B の Eドライブがアクセス可能な場合は、Cluster Manager にて、3-1-7 で作成した業務グループ全体を右クリックし、「移動」を選択し、サーバ A にフェイルオーバーします。

#### 3-2-2.業務グループのリソースが全て起動済みであること。

### 3-3.ウイルスバスター Corp.サーバインストール手順

#### 3-3-1.サーバ A よりインストールを開始します。

方法としては以下の 2 通りです。

■ウイルスバスター コーポレートエディション 8.0 Service Pack 1 適用済版 インストール CDRROM より setup.exe を起動。

■切替パーティションに設定した Eドライブにインストールファイルを置き、その中の setup.exe を起動。

※CDROM もしくは切替パーティション以外から setup.exe を実行した場合、アンインストール時に正常に動作しなくなる場合があります。その場合は手動でのアンインストールが必要となります。

[参考]手動アンインストール方法

<http://esupport.trendmicro.co.jp/supportjp/viewxml.do?ContentID=JP-2061897&id=JP-2061897>

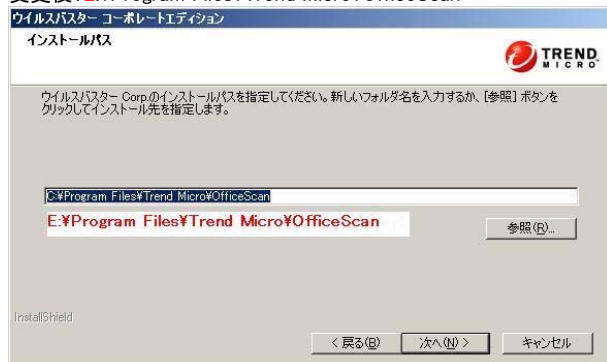
3-3-2.以下は setup.exe を起動後のウイルスバスター Corp.サーバインストールウィザードの解説です。

- インストール先:このコンピュータ
- コンピュータの事前検索:任意で選択
- インストールパス:

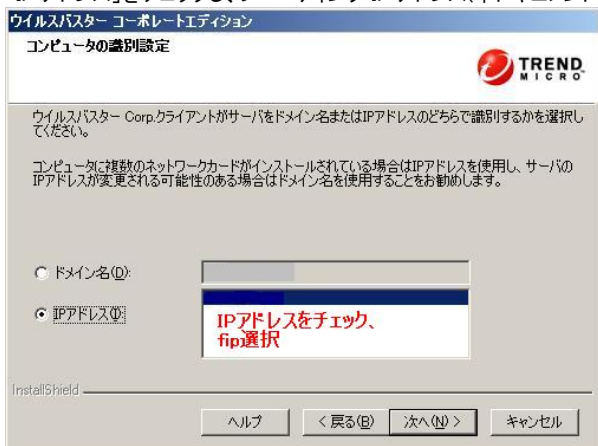
Eドライブ(切替パーティション)にインストールしてください。

変更前:C:\Program Files\Trend Micro\OfficeScan

変更後:E:\Program Files\Trend Micro\OfficeScan



- プロキシサーバ:任意で入力(インストールする環境による)
  - Web サーバ:任意で選択(IIS, Apache から選択可能)
  - コンピュータの識別設定
- 「IP アドレス」をチェックし、フローティング IP アドレス(本ドキュメントでは 192.168.0.12)を選択します。



- 製品のアクティベーション:ご購入頂いたアクティベーションコードを入力してください。
- 他のウイルスバスターCorp.プログラムをインストール:任意で選択
- Cisco Trust Agent アップグレード:任意で選択  
(前ステップで Cisco Trust Agent インストールを選択した場合このステップが表示されます。)
- ウイルストラッキングセンターへのウイルス情報送信:任意で選択
- 管理者アカウントのパスワード:任意で作成
- ウイルスバスターCorp.クライアントインストール  
インストールパス:\$ProgramFiles\$Trend Micro\OfficeScan Client(デフォルト)  
ポート番号:任意(例:50001 など。後ほどサーバ B へのインストール時これと同一にします。  
このポート番号はランダムで決定されるため、注意が必要です。)  
セキュリティレベル:任意でチェック



■ウイルス対策機能: 任意でチェック

■スパイウェア対策機能: 任意でチェック

3-3-3. ウイルスバスター Corp. サーバフェイルオーバー

Cluster Manager にて、3-1-7 で作成した業務グループを右クリックし、サーバ B にフェイルオーバーさせます。

3-3-4. ウイルスバスター Corp. サーバを、3-3 でサーバ A にインストールした手順と同じように、サーバ B でインストールします。

パラメータは全てサーバ A と同一にします。

3-3-5. サーバ B で稼働中のウイルスバスター Corp. サーバに Patch 1 を適用します。

サーバ B からアクセスし、E ドライブに置いた「osce\_8.0\_sp1\_patch1\_win\_jp\_hfb3198.exe」(patch 1) をダブルクリックし、適用します。

3-3-6. サーバ A にフェイルオーバーし、同様に Patch1 を E ドライブに置いた状態から適用します。

3-3-7. 両サーバにて、下記サービスを全て停止し、手動起動に変更します。

OfficeScan Master Service

OfficeScan Control Manager Agent ※Trend Micro Control Manager (以下、Control Manager に接続する場合)

3-3-8. CLUSTERPRO を、ウイルスバスター Corp. サーバ用に設定変更

■Cluster Manager にて、「設定」をクリックし、Cluster Builder を起動します。

設定例

「3-1-7. CLUSTERPRO の設定」で設定した設定例に以下のリソースを追加します。

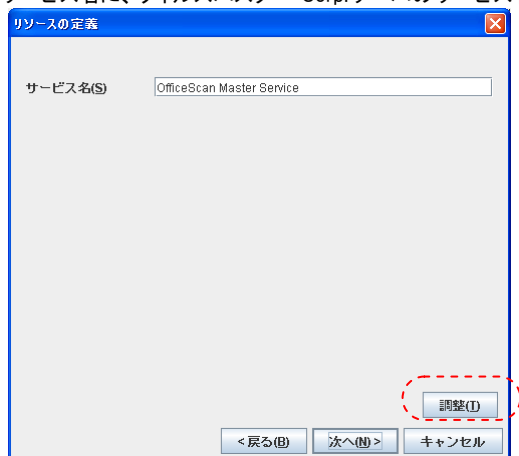
※Control Manager に関する設定は、Control Manager に接続する場合のみ設定します。

設定対象	設定パラメータ	設定値 (共有ディスク、ミラーディスク共通)
業務グループ	タイプ	フェイルオーバー
	グループ名	failover1
	起動サーバ	server1→server2
	グループ リソース数	6
四つめのグループリソース	タイプ	レジストリ同期リソース
	グループリソース名	regsync1
	レジストリキー	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥ Database Backup  HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥ OfficeScan  HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥ Solar
五つめのグループリソース	タイプ	サービスリソース
	グループ リソース名	service_MasterService
	サービス名	OfficeScan Master Service
	対象VCOMリソース名	vcom1

設定対象	設定パラメータ	設定値 (共有ディスク、ミラーディスク共通)
六つめのグループリソース ※Control Manager に接続する場合	タイプ	サービスリソース
	グループ リソース名	service_ControlManager
	サービス名	OfficeScan Control Manager Agent
	対象VCOMリソース名	vcom1
	非活性リトライしきい値	1
五つめのモニタリソース	タイプ	サービス監視
	モニタリソース名	servicew_MasterService
	対象リソース	service_MasterService
	回復対象	failover1
	再活性しきい値	0
六つめのモニタリソース ※Control Manager に接続する場合	タイプ	サービス監視
	モニタリソース名	servicew_ControlManager
	対象リソース	service_ControlManager
	回復対象	failover1
	再活性しきい値	0

#### ■ サービスリソースの設定

サービス名に、ウイルスバスター Corp.サーバのサービス名を設定し、[調整]ボタンを押します。



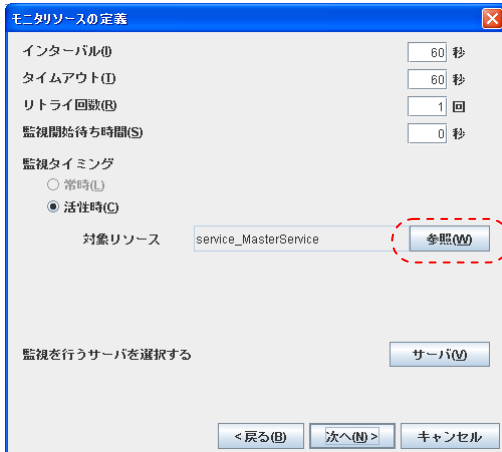
[サービスリソース調整プロパティ]画面が表示されます。

[対象 VCOM リソース名]に仮想コンピュータ名リソースを設定します。

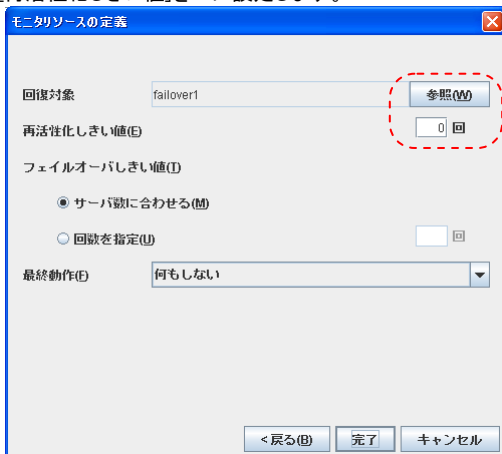


■ サービス監視リソースの設定

[参照]ボタンを押し、ウイルスバスター Corp.サーバのサービス名を設定したサービスリソースを選択します。



[参照]ボタンを押し、[回復対象]に業務グループを選択します。  
[再活性化しきい値]を0に設定します。



3-3-9. 設定ファイルをアップロード

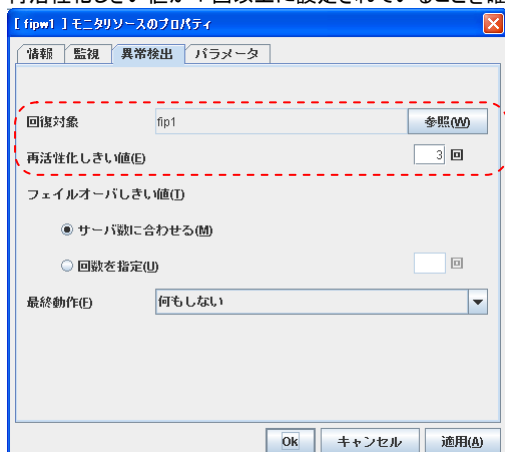
Cluster Builder にて、「ファイル」→「情報ファイルのアップロード」をクリックします。  
※その際、「グループを停止」、「クラスタサスペンド」を要求されます。  
「グループ停止」→Cluster Manager にて、Group>failover を右クリックし、「停止」  
「クラスタサスペンド」→Cluster Manager にて、「サービス」→「クラスタサスペンド」  
アップロードが成功したら、それぞれグループ起動、クラスタリジュームを実施します。

3-4. ウイルスバスター Corp.サーバ用に設定ファイル変更

3-4-1. フローティング IP 監視による fip の再活性化を有効化

■ Cluster Builder にて、フローティング IP 監視の「プロパティ」→「異常検出」より、  
回復対象を「参照」をクリックし、グループの fip が選択されていること、

再活性化しきい値が1回以上に設定されていることを確認します。(3回など)



3-4-2.IIS でインストールした場合、両サーバで以下の設定変更を実施

※3-3-2 で、Web サーバに Apache を選択した場合、本作業は必要ありません。

- 「スタート」→「管理ツール」→「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ」にて、「サーバ名」→「Web サイト」→「既定の Web サイト」→「officescan」を右クリック、「プロパティ」→「ディレクトリセキュリティ」タブにて、「認証とアクセス制御」の「編集」をクリック  
ユーザー名とパスワードを administrator、そのパスワードを入力します。

3-4-3.ofcscan.ini の変更

- 「E:\Program Files\Trend Micro\OfficeScan\PCCSRV\ofcscan.ini」の「MasterDirectory=¥<実サーバ名>\ofcscan」の<実サーバ名>を、仮想コンピュータ名リソース (vcom) に設定した「仮想コンピュータ名」に変更します。

以上で、ウイルスバスター Corp.サーバのインストールは終了です。

Control Manager に接続する場合はこの時点以降に実施し、ここまで、「Control Manager に接続する場合設定が必要」と記述のあった設定を CLUSTERPRO に設定してください。

#### 4.CLUSTERPRO とウイルスバスター Corp.クライアント組み合わせインストール

ウイルスバスター Corp.クライアントとの組み合わせで、CLUSTERPRO で設定することは特にありません。

ただし、CLUSTERPRO を運用しているサーバで、ウイルスバスター Corp.クライアントをインストールする際に注意点がございます。

4-1.ウイルスバスター Corp.クライアントインストール時、後の注意点

※以下はサーバ A、サーバ B が3でインストールしたウイルスバスター Corp.サーバのウイルスバスター Corp.クライアントを追加インストールする場合について記述しています。また、ファイアウォール機能は、ウイルスバスター Corp. 8.0 アドバンス版のみ提供される機能で、スタンダード版では以下の作業は必要ありません。

4-1-1.ウイルスバスター Corp.クライアントをインストールする場合、そのサーバ上で CLUSTERPRO で設定したグループが起動していないことを確認。

例：サーバ A にウイルスバスター Corp.クライアントをインストールする場合は、ウイルスバスター Corp.サーバをフェイルオーバーしてサーバ B が active の必要があります。

4-1-2.NIC のバインド順に注意

- クラスタリング環境にあるサーバのため、NIC が複数存在します。

「マイネットワーク」右クリックにて、「詳細設定」→「詳細設定」→「接続」にて、実 IP アドレス用 NIC がハートビート用 IP より上段であることを確認します。

4-1-3.ウイルスバスター Corp.クライアントインストール後、CLUSTERPRO からのアクセスを許可する為、NIC のファイアウォール設定を変更する必要があります。(ウイルスバスター Corp.アドバンス版のみ本作業実行、スタンダード版は必要ありません。)

- それぞれの NIC で許可する必要があるポートは以下の通り

実 IP、仮想 IP を持つ NIC…TCP29001、29002、29003、29004、29005、29007、UDP29003、29007、29106

ハートビート用 NIC…ICMP、TCP29001、29002、29003、29004、29005、29007、UDP29003、29007、29106

- ウイルスバスター Corp.サーバ管理コンソールにて、「ネットワーク上のコンピュータ」→「ファイアウォール」→「ポリシー」にて、「追加」をクリック

名前→任意で入力

セキュリティレベル→中

ファイアウォール機能→全てチェック(デフォルト)

除外→「追加」をクリックし、上記ポートを入力

名前→任意で入力

処理→ネットワークトラフィックを許可(デフォルト)

方向→受信、送信チェック(デフォルト)

プロトコル→TCP,UDP 等必要ポート選択(上記参照)

ポート:指定ポート番号にチェックし、ポート入力(上記参照)



「保存」をクリック

「ネットワーク上のコンピュータ」→「ファイアウォール」→「プロファイル」にて、「追加」をクリック

名前→任意で入力

ポリシー→任意で入力したポリシー名

その他、任意で必要情報(対象 IP アドレスなど)を入力

「保存」をクリック

その作成した「名前」及び「クライアントのセキュリティレベル/除外リストを上書き」をチェックして、「クライアントにプロファイルを割り当てる」をクリック



## 5. 既知の制限事項

本手順でご説明した環境での既知の制限事項は次のとおりです。

### 【事項 1】

ウイルスバスター Corp.クライアントをクラスタリングされたウイルスバスター Corp.サーバにインストールすると、ウイルスバスター Corp.コンソール上の「ネットワーク上のコンピュータ」→「クライアント管理」に表示されません。

### 【回避方法】

ウイルスバスター Corp.クライアントをインストールするサーバを一度 passive にしてからインストールしてください。active 状態でインストールした場合に本現象が発生します。本現象が発生した場合は、一度ウイルスバスター Corp.クライアントをアンインストールし、再インストールしてください。

### 【事項 2】

ウイルスバスター Corp.コンソールにハートビート用 NIC で表示される。

### 【回避方法】

ウイルスバスター Corp.クライアントをインストールする際に、NIC のバインド順を、「実 IP アドレス用 NIC」→「ハートビート用 NIC」にしてください。本現象が発生した場合は、一度ウイルスバスター Corp.クライアントをアンインストールし、再インストールしてください。

### 【事項 3】

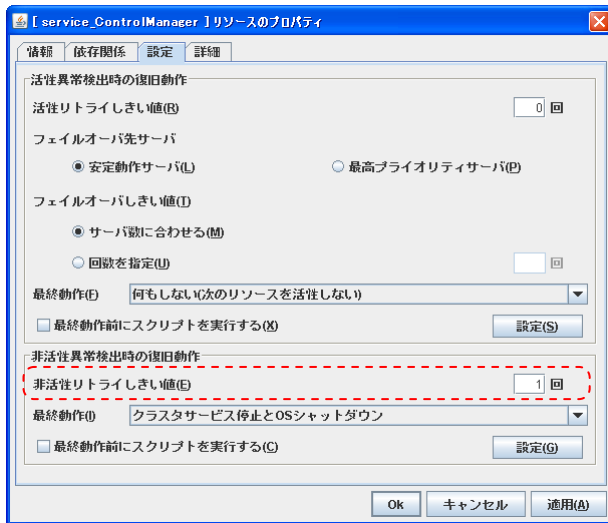
フェイルオーバーする際、active 側で「OfficeScan Control Manager Agent」が正常に終了しない。

### 【回避方法】

ウイルスバスター Corp.サーバを Control Manager に接続しない場合は、CLUSTERPRO でこのサービスを追加しないでください。

Control Manager に接続する場合は、3-3-8、3-3-9 を参考に CLUSTERPRO を設定してください。

Control Manager のサービスリソースの設定で、非活性リトライしきい値に、1 以上が設定されていることを確認します。



**【事項 4】**

クラスタ構成のサーバ上で、ウイルスバスター Corp.クライアントのファイアウォール機能を利用する場合、OS を再起動すると、ごく稀にウイルスバスター Corp.クライアントから fip へ接続できないことがある。

**【回避方法】**

本現象が確認された場合、CLUSTERPRO の設定で、以下の回避設定を行ってください。

■ Cluster Manager にて、「設定」をクリックし、Cluster Builder を起動します。

業務グループにスクリプトリソースを追加します。この設定は、業務グループ起動時に「OfficeScan NT Listener」サービスを再起動します。これにより、本現象を回避できます。

**設定例**

設定対象	設定パラメータ	設定値 (共有ディスク、ミラーディスク共通)
業務グループ	タイプ	フェイルオーバー
	グループ名	failover1
	起動サーバ	server1→server2
七つめのグループリソース	グループ リソース数	7
	タイプ	スクリプトリソース
	グループリソース名	script1
	開始スクリプト	start.bat
	終了スクリプト	stop.bat

**スクリプトの内容**

start.bat(「OfficeScan NT Listener」サービスを再起動する)

```
net stop "OfficeScan NT Listener"
net start "OfficeScan NT Listener"

:EXIT
```

stop.bat(処理なし)

```
:EXIT
```

■ 設定ファイルをアップロード

Cluster Builder にて、「ファイル」→「情報ファイルのアップロード」をクリックします。

※その際、「グループを停止」、「クラスタサスペンド」を要求されます。

「グループ停止」→Cluster Manager にて、Group>failover を右クリックし、「停止」

「クラスタサスペンド」→Cluster Manager にて、「サービス」→「クラスタサスペンド」

アップロードが成功したら、それぞれグループ起動、クラスタリジュームを実施します。

**【事項 5】**

LAN ケーブルが抜ける等の通信障害が発生し、ウイルスバスター Corp.サーバのフェイルオーバーが発生した場合、クラスタサーバ上の Corp.クライアントから Corp.サーバへ通信不能になることがあります。

**【回避方法】**

通信障害を復旧後、ウイルスバスター Corp.クライアントの通信状態をアイコンで確認し、オフラインの場合は「OfficeScan NT listener」サービスの再起動をしてください。

---

## 6.ウイルスバスター Corp.サーバアンインストール

### 6-1.ウイルスバスター Corp.サーバアンインストール手順

6-1-1.該当ウイルスバスター Corp.サーバに所属するウイルスバスター Corp.クライアントを全てアンインストール、もしくは他の Corp.サーバに所属させます。

#### 6-1-2.サーバ A よりアンインストール

Cluster Manager にてサーバ A にフェイルオーバーした状態にします。

6-1-3.Cluster Manager にて、3-3-8 にて作成した、以下のリソースを右クリックから停止する。

- ・四つめのグループリソース(レジストリ同期リソース)
- ・五つめのグループリソース(OfficeScan Master Service)
- ・六つめのグループリソース(OfficeScan Control Manager Agent)※Control Manager に接続する場合

6-1-4.「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」より、ウイルスバスター Corp.サーバをアンインストールします。

6-1-5.サーバ B にて以下のレジストリ情報を削除  
手動にて、以下の情報を削除します。

**警告**

レジストリは Windows の構成情報が格納されているデータベースです。  
レジストリの編集内容に問題があると、システムが動作しなくなる場合があります。  
弊社ではレジストリの編集による如何なる問題に対しても補償いたしかねます。  
レジストリの編集はお客様の責任で行っていただくようお願いいたします。  
なお、レジストリの編集前には必ずバックアップを作成することを推奨いたします。  
バックアップ方法の詳細は、ご使用の Windows のヘルプをご参照ください。

■レジストリキー

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥Database Backup

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥OfficeScan

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥Solar

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall¥OfficeScan Management Console-<サーバ名>

■IIS の情報を削除(IIS インストールの場合)

※3-3-2 で、Web サーバに Apache を選択した場合、本作業は必要ありません。

「スタート」→「プログラム」→「管理ツール」→「インターネットインフォメーションサービス(IIS) マネージャ」より

「サーバ名」→「Web サイト」を展開し、「OfficeScan」を削除します。

その他手動にてウイルスバスター Corp.サーバアンインストールの手順はトレンドマイクロサポートページ以下を参照してください。

<http://esupport.trendmicro.co.jp/supporttip/viewxml.do?ContentID=JP-2061897&id=JP-2061897>

6-1-6.Cluster Builder を起動し、3-3-8 でウイルスバスター Corp.サーバ用に設定した残り全ての内容を全て削除、アップロード実行

---

## 7.サポートについて

7-1.本環境(CLUSTERPRO 上で動作するウイルスバスター Corp.)において問題等発生の場合は、まず CLUSTERPRO をご購入元にお問い合わせください。

7-2.CLUSTERPRO としてのサポートにおいて、原因がウイルスバスター Corp.側であると判明した場合はトレンドマイクロがサポートいたします。

7-3.ただし、お客様の CLUSTERPRO ならびにウイルスバスター Corp.のご購入元、サポート契約の有無によってサポートプロセスが変更となる場合がございますのでご了承ください。

---

## 8.本ドキュメントにおける使用用語説明

- 実 IP アドレス・・・そのサーバが active, passive 状態に関わらず常にインターネット接続用 NIC に所持する IP アドレスのこと。  
(OS インストール時などに設定されるアドレス)
- 実サーバ名・・・そのサーバが active, passive 状態に関わらず常に所持するコンピュータ名のこと。  
(OS インストール時などに設定されるコンピュータ名)
- 仮想 IP アドレス・・・CLUSTERPRO により割り当てられた、クラスタリング構成の複数のサーバで共有する IP アドレスのこと。  
active のみ所持する。CLUSTERPRO では fip(フローティング IP)ともよぶ。
- 仮想サーバ名・・・CLUSTERPRO により割り当てられた、クラスタリング構成の複数のサーバで共有するサーバ名。active 側のみ所持する。
- fip・・・「フローティング IP」の略で、CLUSTERPRO における仮想 IP アドレスのこと。
- vcom・・・CLUSTERPRO における仮想コンピュータ名リソースのこと。